

(4) 静岡県実践講座の概要◆ **日時・場所**

- 日時：平成15年10月25日（土）13時30分～16時30分
- 場所：静岡商工会議所会館 302会議室
- 参加者数：59人（講師・スタッフを含む）

◆ **テーマ**

「～国際理解教育ってなに？ ワークショップを体験してみよう～」

◆ **講座のねらい**

- 開発教育・国際理解教育に携わる人の裾野を広げる
- 多様な参加者どうしのネットワークを築く機会を提供する
- 開発教育指導者研修受講者が新たな人材を育成する立場となる
- 県内の活用できるスキーム（JICA他）を広報する
- 国と国・人と人との「交流」について考えを深めその大切さを共有する

◆ **プログラム**

★セッション1

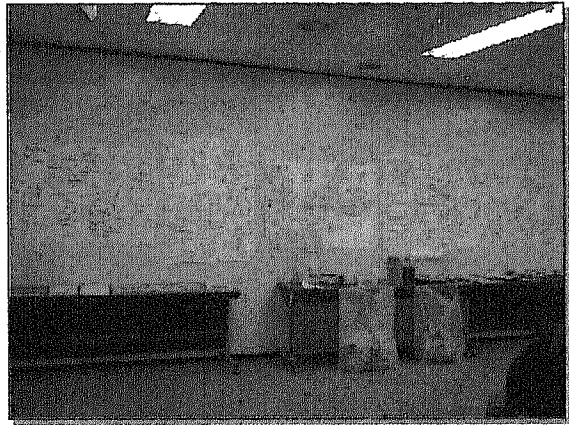
- 1 主催者挨拶 磯貝白日（JICA中部業務課）
- 2 アイスブレイキング 自己紹介（ファシリテーター：日野百合子）
- 3 グループワーク 鎖国ゲーム（ファシリテーター：天野恭子）
- 4 グループワーク 『交流』（ファシリテーター：天野恭子）

★セッション2

- 4 国際理解教育とは？（講師：弓削幸恵）
- 5 国際交流協会の紹介
- 6 JICA紹介
- 7 閉会



▲ まずは自己紹介から (アイスブレイキング)



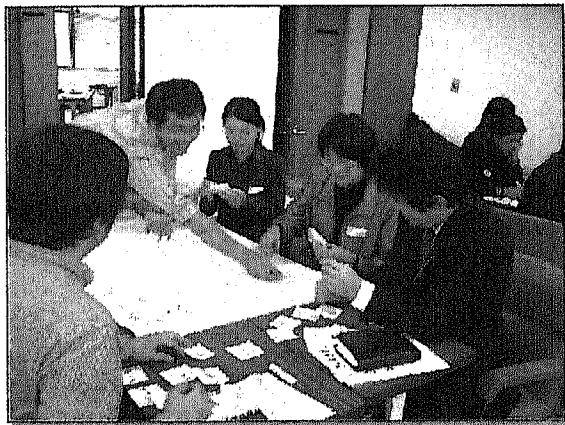
▲ グループごとにまとめられた横造紙



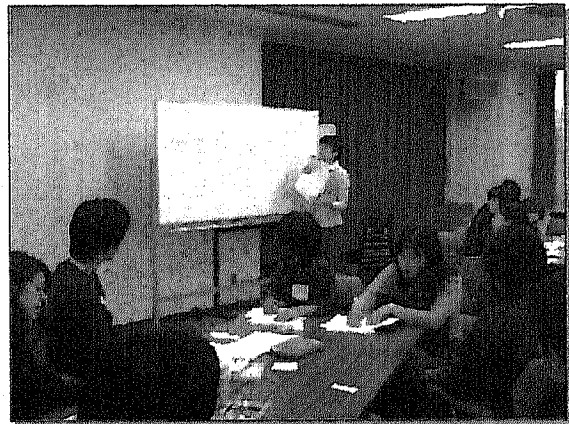
▲ 会場に来るまでお世話になったものは？



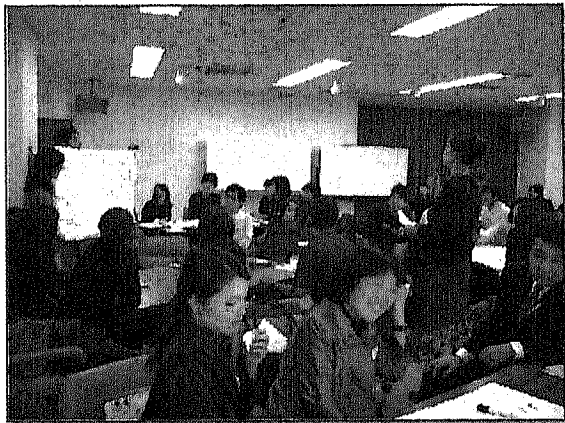
▲ 交流辞典の作成



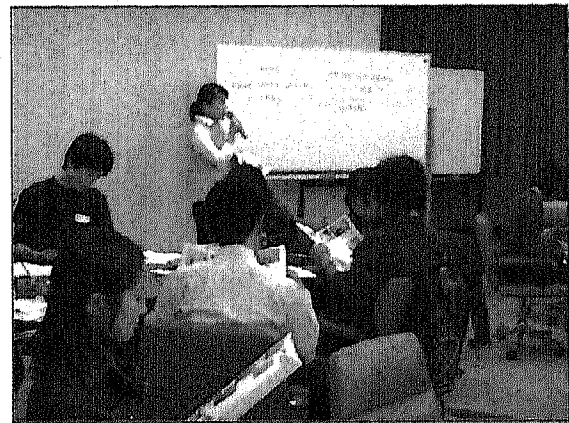
▲ お世話になったものを記入した付箋紙の分類



▲ 開発教育・国際理解教育とは???



▲ グループで分類したものの発表



▲ 静岡県のリソース紹介

II. 研修・講座の成果と課題

1 全体総括

平成 15 年度開発教育指導者研修・開発教育実践講座に係る P 1 の「循環図」をプロセスデザインし、すべてのステージに関わり続けた J I C A 中部職員による本研修・講座の総括「平成 15 年度開発教育指導者研修・開発教育実践講座を終えて」を以下に示します。

(1) 開発教育指導者研修

昨年度の 1 日のみの研修から、期間・内容を拡充し、1泊2日で計3回の連続講座として開催しました。開発教育・国際理解教育は、いかなるテーマを扱うものかということから始まり、プログラムづくりまでを行いました。対象も従来は教員、教育委員会関係者のみとしていましたが、自治体・国際交流協会、NPO・NGO、青年海外協力隊・専門家OB/OGの方など J I C A 関係者、大学生や一般の方など地域の開発教育・国際理解教育の推進者に集まってもらい実施をしました。

その際、研修実施後、東海4県で1日ずつ実施の開発教育実践講座でファシリテーター・企画者として関わって欲しいということ、当初から参加者に呼びかける形で募集をしました。

結果、54名の参加者が集まり、じっくりと時間をかけ、お互いを知り合い、学びあうことができました。

その成果として、1点目は講座のねらいとしていた開発教育・国際理解教育の扱うテーマから、ねらいとねがいを盛り込んだプログラムの作り方で、時間をかけて参加型で学びあうことができたことが挙げられます。2点目は地域で開発教育・国際理解教育を推進していく「仲間づくり」ができたことです。

(2) 開発教育指導者研修その後と各県での開発教育実践講座

◆ 静岡県

まず、はじめに静岡で実践講座を行いました。開催が講座終了直後の10月と時期が近かったため、指導者研修の最終回のプログラムを静岡県参加者で作り、それを練りながら当日を迎えました。

参加者 59 名（以下全てスタッフも含む）が集まる中、当日までの企画・運営からファシリテーターまで J I C A 国際協力推進員、教育委員会関係者、国際交流協会関係者、協力隊OGが協力しながら、はじめて開発教育・国際理解教育に触れる方を対象にプログラムを実施しました。

実践講座後、その時に参加してくれた公民館の方とファシリテーターをしていた協力隊OGで学生を対象とした「なりきりイブンカ交流」という講座を、2月に2回実施したことも、この一連の研修・講座のその後の拡がりとして、紹介したい事例です。

◆ 三重県

指導者研修では、3名の教員が鈴鹿市立神戸小学校より参加しており、J I C A の小中学校向けの開発教育冊子「学校に行きたい！」をもとに、指導者研修中に単発ではない継続の開発教育・国際理解教育プログラムを考案していました。

そこで三重県の実践講座は、神戸小学校の教員に加えて、同じく研修に2名が参加していた特定非

営利活動法人アジア日本相互交流センター（I CAN）の協力を得て、「学校に行きたい！」をテーマに、44名の参加者を得て、実施しました。

プログラムとしては、事前に神戸小学校で数時間にわたって教員が実践していた内容と、神戸小学校に外部講師としてI CANが訪問して実施したシミュレーションゲーム（I CANの活動地域であるフィリピンのパヤタス（ケソン市のゴミ集積所などがある地域）を舞台にしたもの）の一部を実施しました。加えて、青年海外協力隊の話や三重県における開発教育・国際理解教育のリソース紹介なども併せて行いました。

この神戸小学校の事例は、後日、「国際理解教育セミナーin なごや 2004」でも実践されました。また、講座で話した青年海外協力隊が、神戸小学校の国際理解教育の時間に講演に行くなど、その後のつながりがもてたのも大きな成果といえます。

◆ 愛知県

愛知県については、小中高の教員、青年海外協力隊OB/OG、JICA専門家OB/OG、JICA中部関係者など指導者研修の参加者で講座に協力してくれる人10名ほどが何度も事前の打ち合わせの時間を取り、「What's 国際理解教育」をテーマに企画しました。当日は、午前中に青年海外協力隊等の出前講座に赴く人のための研修である「伝え方講座」を実施し、午後はその午前中のメンバーと併せて、48名の参加者を得て、当日は開発教育実践講座を実施しました。

その後の動きとして、実践講座のファシリテーター・企画に関わったメンバーで国際理解教育の勉強会を実施していこうということで、現在月1回ずつ集まっています。

また、指導者研修のときに小学校教諭と青年海外協力隊OGが同じグループになって、最終回で作成したプログラム案も実際アレンジを加えて、そのOGをリソースとして小学校で2回実演できたことも報告したいと思います。

◆ 岐阜県

岐阜県では、開発教育実践講座の前に全国6ブロックで行われる「開発教育人材育成セミナー2003 in 高山」において、JICA国際協力推進員、指導者研修受講者が協力して、同セミナーのセッション「開発教育入門セミナー」で、チョコレートを題材にワークショップを行いました。

そのメンバーの一部と高校の教員、自治体関係の職員を加えて、岐阜県の実践講座を47名の参加者を得て、開催しました。プログラムは、コーヒーをテーマにしたワークショップ、開発教育・国際理解教育を年間のカリキュラムに組み込んでいく方法について考えるワークショップでした。

実践講座に参加した青年海外協力隊OB/OGが、後日、実践講座に参加した教員のいる学校でコーヒーワークショップを実践したり、実践講座に参加した教員が、自分の受け持つ学級でワークショップを実践したりと、岐阜県においても拡がりが見られました。

(3) 来年度に向けて

中部地域に、開発教育・国際理解教育の実践者を一人でも多く育くみ、それぞれが時には個別に、時には仲間としてつながりながら、開発教育・国際理解教育を推進していく。そんな理想図を描きながら始めた指導者研修・実践講座ですが、東海4県すべてにおいて、予想以上の拡がりや深まりを感じています。

来年度は、次ページの図の通り、教師海外研修と開発教育指導者研修をより連携させた形で行いた

いと考えています。開発教育・国際理解教育の推進者を一人でも多く、つながりをさらに拡げることが目的に、1泊2日×4回という日程で、今年よりも1回増やして実施したいと考えています。追加した1回というのは、教師海外研修の帰国後の学校での実践報告に加えて、指導者研修終了後、自分の地域・フィールドで開発教育・国際理解教育について実践または関わった参加者がその内容について発表・共有する、という予定で計画しています。

一方、開発教育実践講座は、教員や教育委員会、自治体やNGOをはじめとした地域の様々な主体と、より連携して「地域の講座」として実施していきたいと考えています。

中部地域で、「生きる力」を持った人類共通の課題に取り組む主体が一人でも増えるよう、今後も指導者研修・実践講座などの中身を良いものにしていけるよう努力していきたいと思えます。

平成15年度の指導者研修・実践講座などに関係してくださったすべての人に感謝を申し上げます。また、本報告書を読んでくださったすべての方には、今後ともご意見、ご協力、ご支援をいただけたら幸いです（文責：JICA中部 磯貝白日）。

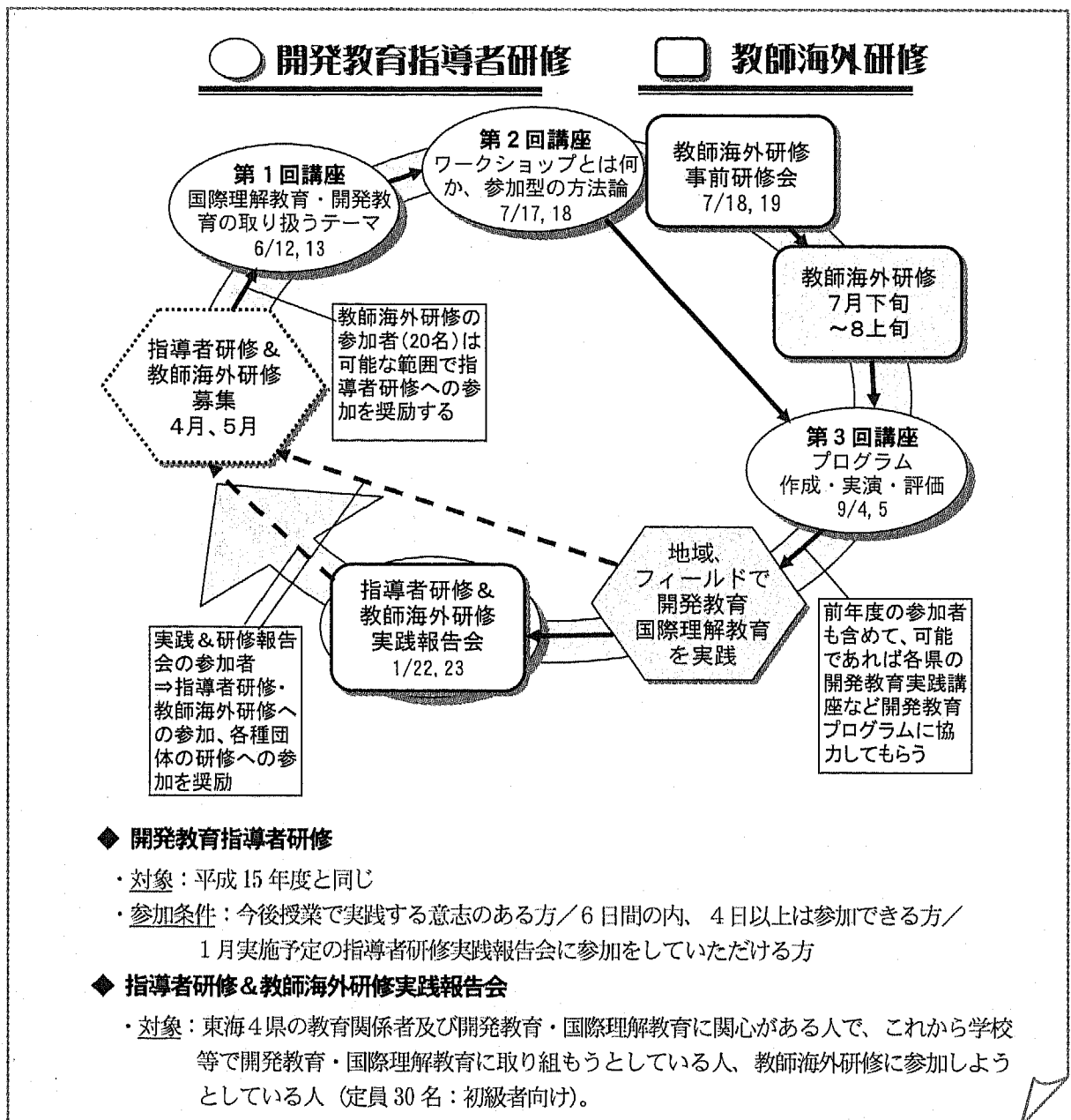


図. 平成16年度JICA中部 開発教育指導者研修&教師海外研修概要 (案)

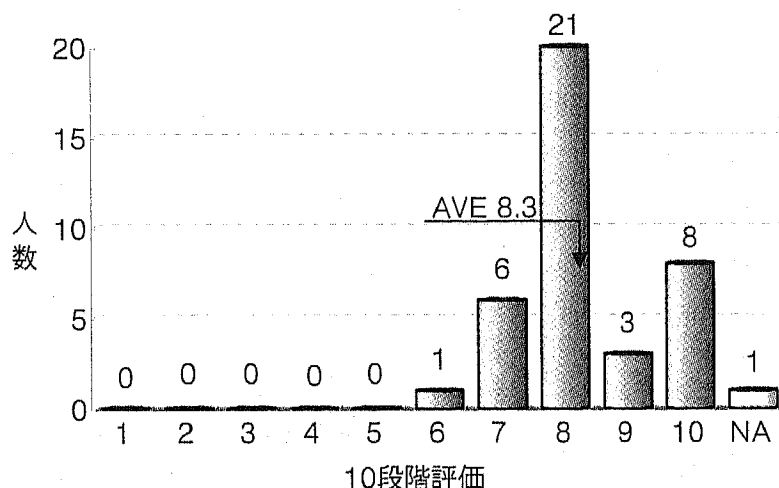
全3回を通じた参加者の「ふりかえりアンケート」結果を示すことで、指導者研修の成果と課題のまとめとします。アンケート項目は次のとおりです。

- 1 主体的に学びあうことはできましたか？（10段階評価／その理由）
- 2 自分の意見や思いを伝える、人の意見や思いを十分に聴くことができましたか？（＼）
- 3 グループワークに貢献することはできましたか？（＼）
- 4 次につながる自分自身の課題はみつかりましたか？（＼）
- 5 あなたの参加の目的はどの程度達成されましたか？（具体的な目的／10段階評価／その理由）
- 6 今回の研修で一番よかったこと／嬉しかったことはなんですか？
- 7 1回～3回に参加するなかでの自分の変化はありましたか？ またそれはどんな事ですか？
- 8 あなたがこれから実行しようと思うことはなんですか？
- 9 今回の研修内容や進め方について、改善点、追加点への提案はありますか？
- 10 この研修を今後どういかしていきたいか、お聞かせ下さい
- 11 JICAの講座などで機会があれば、ファシリテーターとして関わりたいですか？
- 12 次年度の指導者研修への提案があればお聞かせ下さい（第1、2回分を含む）
- 13 参加した理由（第1、2回分のふりかえりシートから）

(1) 主体的な学びあい

◆ 10段階評価結果

「主体的に学びあうことはできたか？」について、10段階評価では、「8」を付けた人が半数いました。最低でも「6」で平均が8.3という結果でした。自己評価結果からは、多くの人が主体的な学びあいができたといえます。



◆ 評価「10」の理由

- ワークショップ形式のものは自分も考えていかないと進まないから。
- 自分で考え、意見を持って話すことができた。
- 新鮮なことが多く、参加者も思いの強い人が集まっていて、自分が元気になれる状況だったから。プロ

グラムに引き付けられた。

- 各自が学ぼうという高いモチベーションをもっている研修は楽しいです！とても刺激的でした（現職教育もこうでありたい！）。
- 難しい課題はなかった。一人でかかえることもなく、自分の中から学ぶことができる。
- 正直に自分の無知も気にせず、グループ内で話し合えた。
- 新しい数々のことが学ぶことができました。
- ワークショップに参加することで、絶えず自分を見つめ直すことができてよかった。テーマがよく絞られ、巧みなファシリテーションがあったからできたことだと思います。

◆ 評価「9」の理由

- 初回遠慮がちだったこと。
- かなり参加者は楽しく学び合えたと思います。
- 今まで自分がいかに自分を出せていなかったか。そして、自分を出すこと、相手のことを知ること、相手と話題を共有していろんな考えを出し合ってよりよい生き方を探すことの楽しさに気づきました。本当に楽しかった10だと思いましたが、これからも学び続けていきたいから9にしました。

◆ 評価「8」の理由

- 昨日は疲れがピークで少しトーンダウン。積極性にかけた。
- プログラム中、自分の考えをもち、人の話を聞いて自分たちの意見を持つことができたから。
- 考えが出ないとき、自身のないときは、グループメンバーにまかせて逃げてしまうところがあった。
- 個人的には10点ですが、今回のような研修は初めてであったため、チームの人たちの足をひっぱるようなことがあったのではないかと思います8点に。
- 自分の能力が研修レベルについて行っていないようにも思えたら、自ら学ぶことはできたのでは…。
- できました。積極的に考えることができたので。
- 毎回参加するたびに気づき発見があり、学びができた。特にメンバー構成（3回目）は高校教員が殆どで、英語科教員も5人いたので、共通の課題があり、主体的に学び合えた。
- 自分のエネルギー（人間力）の限界が見えてしまった。他の参加者の方々は本当に活力があり、探求心がある。
- 少々意見をグループでまとめるのに手間がかかった。
- 自分なりの目的意識を持っているつもりなので、いろいろ目を光らせていた。
- 目的があって来ましたので、でも学びあうところでは反省。
- できた。が、個人的に足りない知識を補うことが欠けました。
- 知識注入ではなくて、参加者相互に引き出しあい、学び合えたと思う。
- 私は今回始めて参加型の研修やワークショップというものに、参加したので、始めはいいからどんなことが始まるのだろう？何が起こるんだろう？という感じでとてもドキドキして心臓が破れそうな思いだったため、ファシリテーターの山崎さんから指示に従って作業をするのに必死で、プラス、こんなことを書いたり、言ったりしたら、人からどう思われるんだろう？などとそんなことがとても気になってなかなか前にでるといふか、自分の気持ちが入りこむことができなかつたが、だんだん参加型の研修という状況にも、人々にも慣れてきて、また、はじめは国際理解教育、開発教育っていったい何だ？という状況で、質問すらできなかつたが、だんだん回ごとにもっと知りたい、聴きたい、せっかくこの研修に参加できたので、もっと積極的に吸収したいという気持ちがつよくなって、だんだん積極的に学ぶことができた。

◆ 評価「7」の理由

- もっと自分の意見を言えるとよかった。
- 難しかった。
- 色々な考え方があり、改めて自分の木津行かないところを知ることが出来てよかった。

- 意義はともよいと思った。でも常に行動、参加しないといけない（傍観者でいられない）のでしんどい。
- 最初は消極的だったが、少しずつ積極的に学ぶことができたと思う。
- 自分の意見も伝え、人の意見も聞いたつもり。スタッフとしての気遣いを減らしてひとりの参加者になりきっていた。

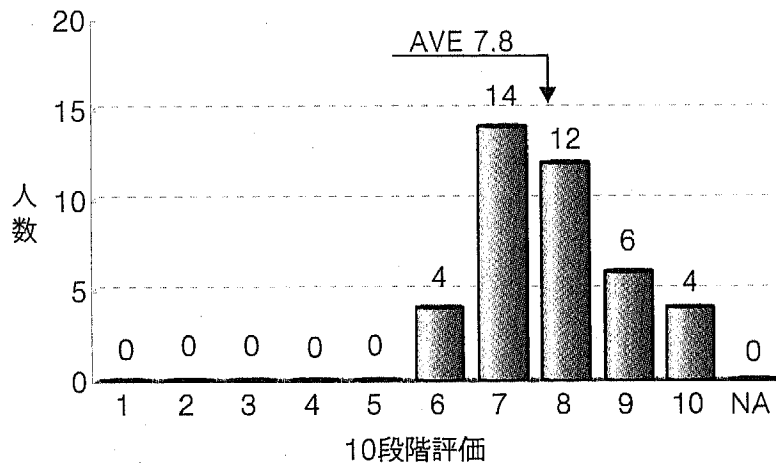
◆ 評価「6」の理由

- 二日目体調不良だったため。

(2) 伝える・聴く

◆ 10段階評価結果

「自分の意見や思いを伝える、人の意見や思いを十分に聴くことできたか？」について、10段階評価では、「7」を付けた人が一番多く、次いで「8」、最低でも「6」でした。平均でも7.8という結果でした。自己評価結果からは、多くの人が伝える・聴くことができたといえますが、「10」を基準に捉えて、マイナスポイントを理由に挙げる人も比較的多くいました。



◆ 評価「10」の理由

- 人の意見も自分の意見と違うところにもいろいろなものを見つけることができた。
- 同じ立場で考えることができました。
- 毎回取り組む内容によって、参加した大勢の人々と意見交換するチャンスがあったので。

◆ 評価「9」の理由

- 人の意見を聴くことはできたが、自分の意見を正確に伝えることができたかは…?
- 先生の進行のおかげです。
- 思いを伝え、思いを聴くことはできた。人の思いを自分の思いにぶつけ自分にどう影響されたかはこれからの自分にある。
- 人の意見や思いを十分に聴けたかどうか、努力はしたけれど、不安。
- 環境問題のプログラム作りに参加できて、満足でした。でも1グループだけというのは少しがっかり。総論ではわかっているが、実際はなかなか難しいということなのではないでしょうか。

◆ 評価「8」の理由

- スケールの大きな人がたくさんいらっちゃって。
- 自分の意見や思いを伝えるのが大変なので。
- 自分の意見を言う方が多かったかな…。もっと人の意見を聞く（人に話をしてもらおう）ようにすればよかったと思う。
- 多くの人の意見は十分に聴くことができましたが、私自身の土台の無さから自分の考えが出ないことが

あったと思います。

- 同じような立場（英語科・高校教員）の人が多かったので、共感を持って聴くことができた。
- 人の意見を聴くことが大切で、今までの自分に足りないことに気づきました。後半になるほど、聴くことができたと思います。それは、聴くことの効果と力を実感できていったからだと思います。
- 自分の意見が正確に伝わらないことがありました。
- 参加していた方の意見、思いを聴くのが新鮮で、考えもしなかったことに問題意識をもっていたり、自分の思いはこれからもっともっとふくらませていって伝えていきたいと思っています。
- 初めはあんなにたくさんの初めてあった人の中に入り、とても緊張の気持ちが強くて、体がかたまってしまったり、もし間違ったことやトンチンカンなことを言ったり聴いたりしたら恥ずかしいと思って、なかなか自分から意見を言ったり、質問したりできなかったが、だんだん人々にも雰囲気にも慣れてきて、ちょっとくらい間違えてもいいかな、と思えてきて、思っていることを言ったり、分からないことを聞いたり、ちょっとムリして頑張ってみることができた。でも、グループの中で、自分と違った人の意見をうまく受け入れる受け止めることができず、つい否定してしまったりしていた気がするので、それが残念だった。もっと人の話に素直に耳を傾けられるようになりたいと思った。
- 一時自分の意見を言うのが怖い時期があったが、それ以外はできた。

◆ 評価「7」の理由

- ふだんよりできた。
- きくことはできたが、思いを伝えるのはまだ難しい。
- 人の意見を、心を傾けて聴けたかは「？」
- 班での作業が多かった。限られた人だけではなく、一人ひとりの出会いも欲しかった。顔と名前がわからないままの方が多かった。
- それぞれの参加者の意見がすばらしいと思いました。あれもいいし、これもいいという想いがプログラム作りでは「ねらい」を絞りきれない原因になっているかも？
- 伝えるにも、受け取ることにエネルギーが必要。
- 自分は聴くのが苦手、下手だと実感。
- やや時間が長く集中力が必要だったので、疲れてしまい、3回目の最後の日に力が出せなかった。
- 自分は伝えられたと思うが、聴きとれたかな…。
- 自分の意見を伝えるのが苦手だったのでよくがんばった。聴くことが得意だと思っていたけど、実に苦手だと気づいた。
- 最後のプログラム作りは自分が話しすぎたかな？と反省。
- 言い易い雰囲気だったので、意見が言い易かったし、自分も聴けたと思う。
- 意見をもっと言えばよかった。
- 時間制限がある中での会話なので、十分とは言えない。

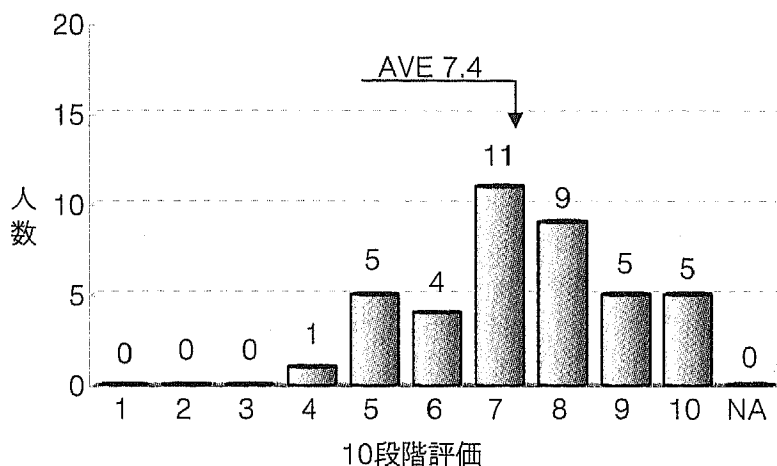
◆ 評価「6」の理由

- 人の意見に対する自分の考えを発することがなかなかできなかった。
- いつも多くのアイデアやネタ資料の選択にう右往左往。自分のことで夢中で「聴く」は不十分。
- 3回講座だったので、段々内容もわかり、思いの伝え方を学ぶことができた。

(3) グループワークへの貢献

◆ 10段階評価結果

「グループワークに貢献することはできたか？」について、10段階評価では、「7」を付けた人が一番多く平均でも7.4であるものの、中庸以下の「4」、「5」を付けた人もいて、自己評価結果からは、10段階評価を設定した項目の中では最も低い評価結果となっています。



◆ 評価「10」の理由

- 全員協力できた。
- 経験が少ない点はたくさんの人にフォローしてもらって、楽しく参加できた。
- 大いに貢献できた。
- 小学校の考え方や教授法を知ることができた。
- 話し合いの中で、考えを伝えること、方向性をまとめること、まとめて記録することなどの場が多く、活動がしやすかった。

◆ 評価「9」の理由

- 素材を上手く活用する道筋をつけた。
- 自分も知りたい題材がテーマになったこともあり、自宅でインターネットから資料を集め、グループのメンバーに配布し、学びの資料とした。
- 自分の考えたことを感じたことを伝え合えた。
- 雰囲気を作るよう心かけた。
- これくらいのグループの論議はそれぞれ力が出せてよかったです。昨日もう少し時間がとれればもっと深めることができたかな。

◆ 評価「8」の理由

- 意見を言うことはできました。採用されたのは…？簡単なことでもメモしておく、後から振り返って話しも進め易くなりました。
- 周囲の人たちが優しく助けてもらえることができた。
- 自分なりにがんばったと思う。
- 自分としてはできたと思う。

◆ 評価「7」の理由

- 自分に適した役割は果たすことができたと思うが中心となってひっぱっていくことはできなかった。
- 多少はたぶん。
- 1回目は苦手なことが多かったので、どちらかという人任せだったが、3回目は自分にできること（得意なこと）を活かす場も多く、貢献できたと思う。
- 部分的に。
- どちらかと言えば聞き手に回った気がします。でも多様な参加の仕方があっていいと思いました。
- 実践が十分でないので、ネタが十分提供できなかった。私なりには多少資料提供はしたが、流れの中でやや不十分であった。
- つい口数が多いので、仕切ってしまいました。メンバーに悪いことしました。
- 貢献というか、参加できたことが幸せでした。でも、集中力がなかなか持続しなくて、時々思考がとんじゃうことが、1時間に1回くらいずつあって…スイマセン。

- 第1回のグループワークの最初の方では、順番が回ってきたときに話すだけで精一杯で、後は人の話を一生懸命聞くだけであったが、そのうちに上手く描けなくても進んでペンを持って絵を描く係をやってみた。第3回まで進んだ頃にはグループワークの時に積極的に意見を出したり、提案してみたり、下手ながら発表する係を進んでやらせてもらったりした。もともと自分は自分の意見を持たず、人に意見を言わず、人前にも出ず、目立たぬようにと思うタイプなので、以前の自分からはとても考えられないことであった。それが、自分にとってはとてもよく頑張った少し成長できたかもしれないと思えることであったが、人とコミュニケーションをはかること、意見交換をすること、絵を描いたり言葉をうまくまとめて書いたり、人前で発言したりすることがとても下手で不徳な自分がそれらのことにトライしてみたことがはたして同じグループの人々にとってよかったか？貢献できたか？と考えると少し自信がないため。

◆ 評価「6」の理由

- 昨夜都合で5時までしか参加できなかった。
- この2学期からプログラムを作る人、もうすでに実践済の人がメンバーにいたので、その方たちがリードしてくれました。
- 自分の知識・経験がまだまだ足りないなあと思いました。一生勉強と経験と思いました。
- 皆さんが積極的な方ばかりだったので、グループワークの時に任せてしまうことがあった。

◆ 評価「5」の理由

- 私の経験のなさからグループに貢献できたかどうか疑問です。
- 力のある方が集まったのでつつい勉強する側になってしまった。
- まだまだ無知な私です…。
- 3回目のグループワークの初日、途中で帰りました。すみません。
- 自分自身の力のなさも感じたが、少しは貢献できたと思う。

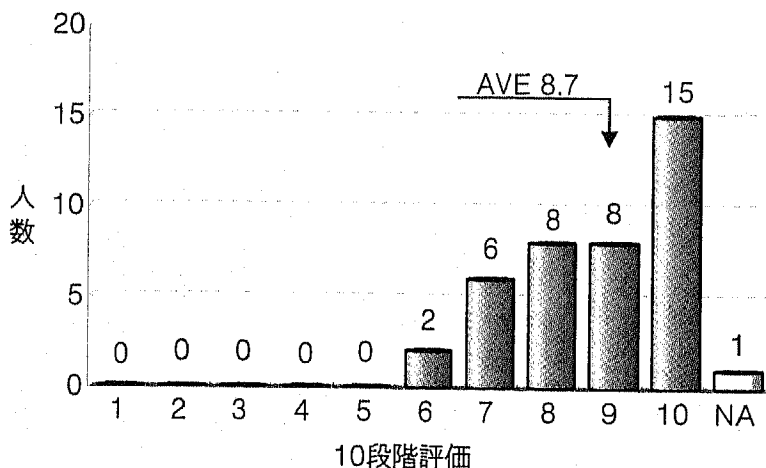
◆ 評価「4」の理由

- 一緒にいた時間が少なかったため。

(4) 次につながる自分自身の課題の発見

◆ 10段階評価結果

「次につながる自分自身の課題はみつかったか？」について、10段階評価では、「10」を付けた人が15人と最も多く、次いで「9」、「8」、「7」という順になっており、平均値も8.7と10段階評価を設定した項目の中では最も高い評価結果となっています。この自己評価結果からは、多くの人が自分自身の課題を発見したといえます。



◆ 評価「10」の理由

- まだまだ自分は何にもできていないんだということを改めて思いしらされました。
- どんな人とワークショップを創るかでその中身も違うかなと。これから自分はどんなワークショップをしていきたいか。
- もっと勉強しなくては。
- 前向きな学び。
- まずは今回作ったものを実践します。そしてふりかえり、改善！
- たくさん見つかりました。見つかりすぎて、期待と不安が入り混じっている様子。
- 自分に足りないもの、もっと磨きたいものが見えてきました。ファシリテーターには満足する到達点でないようにも思いますし、これからも課題はなくならないように思いました。
- 最大の課題は年齢？
- 参加型の手法を勉強して、変化のある面白いプログラムを作りたいです。
- はっきりわかった。
- フォトランゲージを使ったり、アイスブレイクなどで発見できるようになった。
- 自分がこれまで福祉障害児教育の中で考え実行してきたことが、国際理解にもつながることが実感できた。自分のいる場で多様な生き方、考え方の人との共生を積極的に進めていきたいと思う。また、お手伝いできることがあれば参加したいと思っている。
- たくさんたくさん。だからこれからも楽しみです。
- 異文化理解や、他人への理解の前に、まず自己理解、自己開発の大切さ、必要性を強く感じた。また、自分は全く自分を理解できておらず、自分（欠点や短所、悪いところなど全て含めたありのまま）を全く受け入れること、認めることができていないことに気がついた。もっと自己理解を深め、自己開発をするという自分の課題をのりこえることができて、初めて次のステップ（他人との関係、他人を理解するということ、他人とのコミュニケーションなど）に進めるのでは（ゼロ地点に立てるのでは）と感じた。開発教育、国際理解教育って一体何だ？という状況でいきなりこの指導者研修に参加させていただいたが、まさかこの研修に参加して、こんな課題が見つかる（自身の問題に気づく）とは思ってもみなかったもので、これに気づかせていただけたことは自分にとって、とても衝撃的で大きな出来事だった。

◆ 評価「9」の理由

- より鮮明になった。
- 創ったプログラムを実際にやる計画ができたのでよかったが、継続して同様の活動を広げていく方法は見つかっていないので、そこが一番の課題。
- 詰め込みすぎても学習効果がさがることがわかった。
- 少し実践に片寄っていたので、ねらいをもう一度はっきりさせたい。そのために、じっくり時間をかけて学び直してみたいと思う今日この頃である。
- 自分の仕事でも活かしていきたいと思います。学びの場を広げるぞ〜！
- 授業でやるには、まだ、案と「ねらい」がはっきりしていない。
- はい。まず、職場や同僚や、若い後輩に広げたい。

◆ 評価「8」の理由

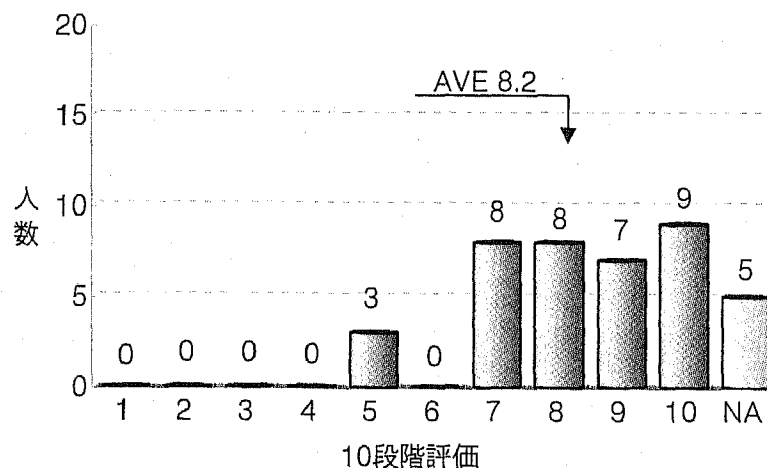
- 私は協力隊、日本語学校など経験はしているが、それをどう日本の高校の中で活かしていけるか課題。でも今回、展望が見えてきた。やはり一人でやろうとせずみんなで作るのが大切。
- 8点にした理由、まだまだ自分がファシリテーターになる自信はありませんが、現在私が関わっている地域のボランティア活動のプログラム作りには参加型の方法を取り入れたいと思っています。
- 学び続ける事の重要性和自分を信じる大切さ。
- 自分でプログラムを作ってみたいという思いが強くなりました。
- なんとなくぼや〜としていたが。

- 自分の学校で実施できることは考えられたが、自分の将来の課題は見つからなかった。
 - 自分で動け！ってことがわかりました。
- ◆ 評価「7」の理由
- 数年前から異文化理解のレポートをまとめているが、是非今年は集大成でまとめてみたいと思った。
 - どのような場で活用するかが問題。
 - 静岡県における開発教育について検討していきたい。
 - 気づいたことを実践していきたい。
- ◆ 評価「6」の理由
- 消化中。
 - テーマのねらいの大切さを実感した。聞く事の大切さ、待つことを心がけようと思う。

(5) 参加の目的の達成度

◆ 10段階評価結果

「あなたの参加の目的はどの程度達成されたか？」について、10段階評価では、「10」を付けた人が最も多いものの、「7」、「8」、「9」も同程度の人数になっています。平均値は8.2と比較的高く、課題を発見した人も多いことも含めて、多くの人が参加の目的が達成できたといえます。



◆ 評価「10」の目的と理由

- 【目的：自分探し教材探し】期待以上のものを頂けました。
- 【目的：プログラム作りに大切な要素を学ぶ】
- 【目的：いろいろな人の意見を聞く】本当にたくさんの人の意見、考えが聞けました。
- 【目的：「国際理解教育」を知る！】まったく「国際理解教育」という言葉を知らなかった私には衝撃的な出会いでした！
- 【目的：国際理解教育って何？を見つける。ファシリテーターの方法を知る。国際理解教育のワークショップ作り】国際理解教育って何？を見つける。ファシリテーターの方法を知る。国際理解教育のワークショップ作りのため。
- 【目的：人との出会い。新しい手法を知る。】他都市のいろいろな人と交流できた。様々なアクティビティが体験できた。
- 【目的：ワークショップの手法入手】その目的以上のものも達成されました。
- 【目的：子育てに関する講座】
- 【目的：国際理解の方向をつかむ】自分の学校で児童や職員に今回学んだことを伝えられると思う。自

分の方向性がしっかり持ててよかった。

◆ 評価「9」の目的と理由

- 【目的：プログラム作り】実際にプログラム作りを行えた。
- 【目的：プログラム作りのアイデアを实体化する】「流れ」を作ることができた。よいたたき台が作れた。
- 【目的：ネタ探し】ネタさがしだけでなく、「どうしたいか」というねらいを深く考えることがいかに大切かを考えさせられた。
- 【目的：JICAと開発教育を理解する】青年海外協力隊経験者からいろいろと話が聞けた。開発教育が身近に感じることができるようになった。
- 【目的：】勉強になった。刺激になった。
- 【目的：授業が一つできました。】たくさんの資料を見られたこと！まず一つ作るということができた。（単元では人生初）。

◆ 評価「8」の目的と理由

- 【目的：開発教育、国際理解教育とは？】ぼんやりしていたものは少しずつクリアになってきたが、まだくもっている部分もある。
- 【目的：国際理解プログラム教案作り】まだプログラムが練りきれない。
- 【目的：study tour 企画、実施をプログラム化する。】まだ具体化できていない。
- 【目的：】自分の積極性の足りなさが惜しい。
- 【目的：コーディネートの参考に】
- 【目的：プログラム作りの手法を学ぶ】実際どれくらい実践していけるのかはともかくプログラムを立てる考え方はわかった。

◆ 評価「7」の目的と理由

- 【目的：ファシリテーターの具体的な方法体得】プログラム案を作る流れはよくわかったが、実行はできなかつたので。
- 【目的：高校で実践】実践できそうなプログラムができた。
- 【目的：プログラム作成の方法。実際のファシリテーターの進め方を身につける。】大変すばらしいプログラムが作成できたと思うが、自分の力だけで同様のことができるかどうかはとってお؟؟（たぶんムリ）また、実際に有効なファシリテーターができるか、どうしたらよいか、まだまだよくわかっていない。
- 【目的：プログラム作り】大きく進歩しましたが、今回は初めてなので、びっくりしていることが多く、まだまだプログラム作り、ファシリテーターなどに自信はありません。
- 【目的：ワークショップの手法を学ぶ】
- 【目的：中学生向きのプログラムを作る】プログラム自体はまだできていないが、パーツと考え方はたくさん仕入れました。
- 【目的：国際理解教育・開発教育って何だ？を少しでも学ぶこと】学生のときも、総合学習の時間などではなく、自分で勉強したこともなかったので、今まで一度も「国際理解教育」を受けたこと（学んだこと）がない状況で、いきなり指導者のための研修（中級）に参加させていただいたので、基礎の部分の理解が十分でないかもしれない。順番が逆になるが、今後あらためて、自分で基礎講座を受けるなどして、抜けている部分を勉強してみたいと思った。

◆ 評価「5」の目的と理由

- 【目的：「参加型」のマニュアル作り】非常に困難だと言うことが分かっただけでも「よし」とします。
- 【目的：ファシリテーターとしての能力アップ】ファシリテーターとしての能力は簡単には上がらないことがわかりました。でもこれからも学び続けたい気分になりました。
- 【目的：OBのサーモンでのスキルアップ】JOVCOBではなかなか活用する場を作れない（力不足）。

(6) よかったこと／嬉しかったこと

「今回の研修で一番よかったこと／嬉しかったことはなんですか？」という問いには、「学ぶことが多かったこと」や「知人や仲間が増えた」という意見が多く、具体的には次のように回答しています。

◆ 具体的回答

- 学ぶことが多かったし、知人も増えた。
- グループの一員として最後まで他のみなさんと一緒に考えることができたこと。
- 「あなただけにラブレター」のアクティビティ。国際理解の仲間ができた。
- 学校の先生が多い中で、開発教育のワークショップができたこと。
- 同じような考えを持った人々、開発教育の意識の高い人々とたくさん出会えたこと。山中さんのようなすばらしいファシリテーターが行う研修に参加できたこと。
- 多様な人との交わりからいいものができる。
- 多くの人の考え意見を聞くことができたこと。6時限にも及ぶ教材のプログラムを開発できたこと。
- 自分とまわりをじっくり観察できたこと。流れのあるプログラム体験と実践。
- グループの一員として同じ目的で行動したこと。別の世界の人と知り合えたこと。
- 楽しくどの活動もできたこと。自分たちでプログラムを作れたこと。
- 知り合いが増えました。
- もう開発教育を知れたこと、この研修に参加できたことです！
- 開発教育を通して熱い思いを持つ人に接することができて、もっとがんばりたいという自分に出会えた。もっともっとファシリテーターの能力、人間力を磨いていきます。
- 一つのプログラムを完成にめどがたった。
- 教員以外の方とのワークショップ参加。自分の開発教育への取り組み姿勢の再考のきっかけ。
- ワークショップ。
- 協力隊経験者の方とたくさん出会えた。学校の先生から現場の話が聞けたこと。
- 「開発」の意味するところが分かった。教えるとはどうゆうことか少し分かった（学校の先生方を通して）。
- なんとかみんなとワイワイできた。
- 新しい形の研修会に参加できたこと。多くの人と仲良くできたこと。情報交換によって、授業が具体的に考えられたこと。
- いろいろな人と出会えたこと！力を合わせて活動できたこと！！
- モヤモヤしていた自分の内側がすっきり、はっきりしました。例えば教師としての姿勢、開発教育への不安。
- いろいろな立場の人とともに話すことができたこと、学べたこと（同じ高校教員でも、こうした場で話すとはちよっと違うけれど…）。
- 様々な人に出会えたこと。ワークショップの作り方が少し分かりました。
- 同じような学校で同じような悩みを持ちながらも、何かやってもよようと考えている人がいることを知った。
- 人々のなかにもっと入ること。
- 行動したいとずずずしてきた。とにかく実践を積み上げていき「一年を創る」。
- プログラム作りについて。
- たくさんの仲間と知り合えた。
- 「共生」が基本であることが分かり、そのために努力している大勢の人と知り合えたことがよかった。自分の方向性が見えてきた。

- みちさんと出会えたこと。
- ファシリテートということを知ったこと。新しい友人ができたこと。しかも、こうした話題で延々と話し合える仲間。
- 研修に参加する前は、「遠くの人を理解」の前にまず「身近な人を理解」することがちあじとかそんな様なことで勉強するのかと思っていたが、他人を理解する前にまず自分を理解することが大事・必要と初めて気がついたこと。他人を認めたり、受け入れたり、許したりできる慣用な人になりたいと思っているが、そのためにはまず、ありのままの自分を認め、受け入れ、許すことができなければ…と思えたこと。自分を大事にすること、自分についての問題解決が、人との関わりを考えていく、良くしていく上での、ゼロ地点であると思えたこと。
- 国際理解教育の本質が見えたこと。ネットワークができたこと。
- たくさんの人と知り合いになれたこと。

(7) 参加を通じての自分の変化

「1回～3回に参加するなかでの自分の変化はありましたか？ またそれはどんな事ですか？」という問いには、「ファシリテーターをやってもいい」とする意見が散見されるほか、肯定的な変化の回答が多くありました。具体的には次のように回答しています。

◆ 具体的回答

- ファシリテーターを目指そうと思った。
- 前向きになった。ファシリテーターをやってもいい（やれる）気が少しだけしてきた。
- だんだんグループワークの中などで、自分の意見をどうやって伝えていったらよいかかわかってきたような気がします。
- 自分から人に声をかけるのは苦手だった（人との交流に受け身的だった）が、この研修の中で、少しずつ自分から人に話しかけていけるようになってきた。
- 自分の等身大の大きさがなんとなく見えてきた。
- 大きく変化しました。プログラム作りに参加し、自分の考え意見も出さざるを得ない状況下では、それなりにやり遂げることができた。ファシリテーターの役目についてよくわかりました。プログラムの作成のしかたもわかりました。
- 「先入観」「ステレオタイプ」を無意識に行うことへの恐怖を感じるようになった。反面、より一層配慮するよう留意するようになったと思う（と望む）。
- めちゃくちゃありました。いろんな意見があり、またそれを持ち寄れば、すごいことできると感じるようになった。
- 自分に自信が持てました。人前で話すことにちょっぴり慣れた。
- せまい自分の価値観が広くなりました。「教育」という言葉の重み。
- 難しさに気づいて、「もっとがんばろう」という思いを強くしました。開発教育の可能性への思いを強くして、好きになりました。
- 教えなければならぬ「教育課程」も大切だが、考えさせたい。教えたいことがやれるファシリテーター（空気みたいな）を是非やってみたい。
- 元気がもたらえた！（健康を害していた時期もあったので）
- 今回だけ参加しましたが、お勉強になって、新しい国際交流をしてみたい。
- 協力隊の方の話を聞いて、3回目の夜に初めて自分も若い時は積極的に夢中で生きているときがあったと気づきました。それに気づいたとき、開発教育がとても身近に感じることができました。
- 今まで共同作業することが少なかったので、その雰囲気になれたこと。
- 3回目でやっと雰囲気に慣れた。

- 参加したいと思う研修を提供してもらい、とても幸せだと感じた。児童が望む授業、行きたいと思う学校づくりのために努めたい。
- より真剣に考えられるようになりました。
- ちょっと元気になる。
- ワークショップのファシリテーターを自分でもやれる気になってきました。
- 待つこと。表にでないこと
- 人間性を養う！特に待つ。ファシリテーターは人柄です。
- いろいろの導入を知った。
- 細切れの技としては捉えていたけれど、プログラムができるとは考えてなかったです。
- 自分を信じ、人を受け入れることが、今まで以上にできるようになった。自分の方向性が見えてきた。
- 出不精が少しなおった。
- 肩の力が抜けて素の自分で活動できるようになった。
- 初めはあまりグループの中でも、意見を聞いていることの方が多く、あまり自分から意見を言ったりすることに抵抗があったが、2回3回と参加する中でだんだん少しムリして（頑張って）意見を言ったり、分からないことに対して勇気を出して質問してみたりできるようになった。もともとの自分の性格から思えば第3回の時の自分はとても信じられないような不思議な感じであった。こんな自分でもやれば（もっと努力すれば）できるんだなあ（できることが本当にもっとたくさんあるのかも）と思った。苦手なことも、下手でもよいからやってみよう、という姿勢や、大変だがもっと努力することが大事とつくづく感じた（今更ながら）。
- 最初は研修ということで、参加も受け身だったが、山中さんの研修を重ねることで、とてもリラックスができたこと。
- ファシリテーターを客観的に見つめる。

(8) これから実行しようと思うこと

「あなたがこれから実行しようと思うことはなにか？」という問いには、「授業や現場で実践すること」とする回答や「研修を通じて学んだことを活かす」といった回答が多く見られ、指導者研修の当初のねらいに向けた参加者の意欲が醸成されたといえます。具体的には次のように回答しています。

◆ 具体的回答

- どんどん授業で実践すること。
- 物事をもっとよく見て、聞いて、考える。それに基づいて仕事をしたい。
- 高校で実践。
- 時間を上手につかうこと。わかりやすい説明をすること。
- 参加者の自主性を最大限に活かすような活動を考え実践していく。色んな人と出会い、お互いの思いを大切にしながら協力し色んなことを作り上げていきたい。
- まず学位（工博）をとります。
- 国際理解教育、開発教育を現在私が携わっている学校で取り入れていきたい。地域で活動している福祉の仕事にも今回の研修を取り入れたい。
- 消化中です。
- この分野、関連分野の情報収集。
- スマイル！実践！振り返る！
- 外国人集住地域でのプログラムの実践。
- 1スマイル、2大きな心、3世界情勢をより知ろうとする姿勢。
- ファシリテーターの実践をしたいです。

- 自分なりにアイデアを今回の手法で（ただ一人でやらなければならぬか）実体化してみたい。
- 様々な人的リソースを活用した実践。じっくりと学び直してみたいことがいっぱいです。
- 文化の多様性を分かるようなワークショップ。
- 参加型の手法を勉強すること。笑顔。はっきり話すこと。
- 地域で少人数を対象に機会があれば一つ一つ検討することから始めたい。
- 自分にできる国際貢献を考える。
- 10/25のJICAの静岡県開発教育実践講座。
- ワークショップの時だけではなく、普段から受け止める、待つことをしていこうと思います。
- まず自分の周囲から、次回は他の人に声をかけて出てもらおう。
- どこで実行できるかということを考える
- 失敗をおそれず、授業でやっていこう。
- 環境教育の実践とNPOの実践の結合。
- 最終日、すぐにグループワークでプランを作りたかった。
- 市民や県民に伝えたい。
- 英語の授業の中に今日作ったプログラムを取り入れる。
- 人との出会いを大切に。柔軟な姿勢をもち続ける。視野を広く持ち、いろいろな考えをもっともつと吸収する。多様な考え方の人との共生を自分のいる場で進めていく。
- 作ったプログラムを実践する。
- 中学国語の授業にファシリテーションの手法と考え方を取り入れる。
- 1) 自分をもっとよく理解すること。自分の中の悪いところから目をそらさずに自分をもっとしっかり見つめ直すこと。2) 自分の意見を持って、人に伝える努力をすること。3) 自分と違った他人の意見を心の中で否定せずに、自分とは違った考え思ひとして受け止め、受け入れることができるようになるよう心がけること。4) 人の話に耳を傾けること。素直に聞くこと。5) 国際理解教育の基礎講座をどこかで自分で受けて勉強すること。6) 今回みつけた自分の課題の克服。
- 国際理解教育の静岡県におけるネットワークの構築。
- 笑顔を大切に。

(9) 今回の研修の改善点・追加点への提案

「今回の研修内容や進め方について、改善点、追加点への提案はありますか？」という問いには、「次のステップ、続けること」とする回答や「ボリュームが多く時間に余裕があったら」といった回答が多く見られました。具体的には次のように回答しています。なお、特にないという意見は割愛しました。

◆ 具体的回答

- もう少し具体的な実行法を体験したかった。グループでのプログラム案を作る作業にもっともつと時間がほしかった。
- できれば、今日だけで終わらないよう、次のステップ（研修）を考えてください。
- 継続という言葉をお聞きして、さらにやろうと思いました。ぜひ続けてく私たちを育ててください。
- 最終回、もう少し時間が欲しいですね（プログラム作りながら、作り方のポイントを言われても時間が気になって、集中してきけなかったから）。
- 参加メンバーの中で、自分の場合は未経験分野だったこともあり、時間的な面でもう少しだけ配慮してほしい。
- 研修に慣れていなかったのも、とても短く感じました。もう少し時間に余裕があるプログラムが望ましいと思います。
- こういった研修を続けていってほしいと思います。

- 先生とJET（語学指導等を行う外国青年招致事業：The Japan Exchange and Teaching Programme）の国際交流員を一緒にしてワークショップを作らせればいいと思います。
- 用語が難しい。
- 2回目のボリュームの多さがちょっと大変でもあったので、少し軽くなるとありがたいです。
- 私は教員なので、NGOやNPOやJICAに関わる人との交流とアイディアの交換をしたい！できれば、学校の現状を伝えて、NGOの人たちのやりたいこととつなげたい。
- 授業実践！それが私のすべきことという自覚と責任。JICAの予算は私たちの税ですから。
- いろいろな手法（ワークショップ）を具体的に教えて欲しい。
- 初心者のために「おすすめ図書」「イベント情報」など、勉強を続けるためのアドバイスをいただけると助かります。
- 他の先生や違う観点から国際理解教育を検討したい。

(10) 今後活かすこと

「この研修を今後どういかしていきたいか、お聞かせ下さい」という問いには、さまざまな場面で活用したいと、具体的には次のように回答しています。

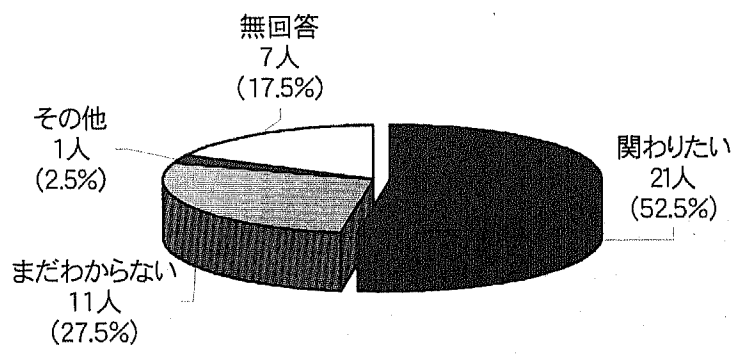
◆ 具体的回答

- 今度は自分が学んだことを職場で広めない。
- 講演やイベントに生かしていきたい。知り合った方々もリソースとして活用していきたい。
- 企画初の講座参加者になれたので、愛知の教育の中に国際理解を広めていく！ファシリテーター能力も高めたい。
- JICA国際協力出前講座の中で、いかしていきたい。具体的には、自分がやる講座の質的向上。一方的に自分の思いを伝えるのではなく、参加者が自ら活動し、気づいていけるようなプログラムを考え参加者の自主性、思いを尊重した進行ができるファシリテーターになるように努める。
- しっかり生きてます。
- 学校教育の中で、IF（自分が活動する市民団体）の活動計画の中で、福祉の面で活動しているので、上手にいかしてプログラムの開発につとめたい。
- まずは自分が少し変わったので、この心の変化を持ち続け、今後の活動をしていきたいです。
- 仲間、地域に伝える。
- ファシリテーターとしての能力をあげて、実践していくとともに、自分の人生を充実させていきたいと思えます。
- プログラムの実践（機会を作りたい）。
- 小手先だけではなく、基礎（根っこ）から鍛え直していきたいと思えます。まだまだ勉強不足です。
- 地域での国際理解教育はしているが、もう一方進んだ講座を開催できるよう働きかけたいです。
- 私の対象は一般なので、分かりやすい方法を考えたい。
- この講習を一緒にした人たちは頑張っているのだということ→自分も頑張ろう。
- 教職員向けのワークショップを実施し、学校の中に広げて行きたい。様々な経験を持つ人々と、交流し、国際理解の意義を考えたい。
- 教員研修、立ち上げたいです。様々な人、機関の連携につなげたい。
- 授業の中、日常生活の中で、活かしていくつもりです。将来は提供する側になれるよう頑張ります（自然体で）。
- 継続して関わって行きたい。
- つながりを大切に。メーリングリストなどでつなげていきたい。
- 今後が楽しみです。研修費を取ってもよいのでは？

- ネットワークを存続させたいと思う。
- 児童対象のワークショップ。職員の中でここまで学んだ考え方や手法を広げる。
- 総合の授業実践。
- 1) 日々、もっと身近な人とのつながり、関わりを大切にしたり、職場や家庭などでも自分の意見を持って人に伝える努力をしていきたい。2) また、苦手な相手と決めつけず、苦手な人ともムリのない範囲でコミュニケーションを計ることも少しずつ心がけたい。3) また、人と話すときや人の話を聞くときは、相手の目を見て話す、聞くなど、コミュニケーションをとるときの基本的なことを大切に心がけてみようと思う。4) また、もしも人前で話をしたらいい、発表したりする機会があれば、ゆっくり大きな声で顔を見ながら話せるように心がけるなどしたい。5) 自分を見つめ直して、人との関係をもっと良く築けるために活かしたい。6) ファシリテーターをやるのはとてもまだ無理と思うが、国際理解教育の基礎やワークショップについてなど、もう少し何か勉強して、まだ形はわからないが、何かの形でいずれ仕事にも活かすことができれば嬉しいと思う。
- 静岡県の国際理解教育啓発に向けて、JICAや教育委員会、市の国際交流協会などと協力して、システム作りをしたい。
- 自分がファシリテーターをするとき、JICA国際協力出前講座の導入部に関わるときなどに、さっそく活用したい。

(11) ファシリテーターとしての参画意向

「JICAの講座などで機会があれば、ファシリテーターとして関わりたいですか？」という問いには、半数以上の21人が「関わりたい」と答えました。



(12) 次年度の指導者研修への提案

「次年度の指導者研修への提案があればお聞かせ下さい」という問いの具体的な回答は次のとおりです。また、第1回、第2回の最後にとった同様なアンケート結果も併せて掲載しました。なお、今度も続けて行ってほしいという提案は割愛しました。

◆ 具体的回答（3回を通じたアンケートより）

- 7月は時期的難しいかもメディアにとりあげられるといいですね
- またJICAとも開発教育の分野でも色々やっていきたいなあと思っています。どうぞよろしく。
- 多様なセクターの人を巻き込んで、実際のプログラムを多数作り出していけるように協働作業の場に！！
- 各地で様々な活動をしている方がたくさん集まっているように思いました。そうした方々の活動内容も聞いてみたいです。
- ワークショップの時間が15分よりもう少し長くほしかったかな。

- 初心者用には、まず、経験のあるファシリテーターがプログラムを作り、それを対象者の現状に合わせてアレンジするやり方がよいと思う。
- やはりこれくらいの時間が必要。ありがたかった！まず続行！アイスブレイキングプログラムなどテク編も。
- 夏休み中に3回共実施してもらえると参加しやすいかな、と思います（教員にとってはややきつい時期でした）。
- 国際交流協会のスタッフなど、コーディネートする側の人にも参加してもらい、進め方を話し合う場がほしい。

◆ 今後への期待（第1回アンケートより）

- 海外よりの研修生を、いろんな場所へ特に子供たちの所の。
- 良い人々の集まる機会づくり。
- 特に迷ったり困ったりすることがあるので、リピーターでも参加できるような、実践の場（開発教育の）や機会を作ってください。又、国際理解、共生社会の実現のため、全体のファシリテーター役を今後よろしくお願いします。
- メディアとの連携。
- 情報を流す。
- 開発教育へも力を入れていって下さい。
- JICAをもっと身近に知りたい。
- 愛知県教育委員会にもっとアピールして！
- 文科省と仲良くしてほしい（外務省の問題でしょうか？）。
- JICAはまだまだ余裕があるので、場所の提供、講師、道具等の物理的なサポートを住民にしてゆけば喜ばれる。
- 国際的な交流を通して国際人の育成を！
- 途上国の要望に応じた国際協力活動、また、国内の在住外国人への支援事業なども検討していただければと思います。
- お互いの長所を生かして協調して課題に取り組めることを見つけたい。
- 研修でJICA国際協力推進員の人たちに、海外では実際にどのようにコミュニケーションをしていたのか、困ったことや、協働の具体例などを聞かせて欲しいです。
- JICAへの期待というよりも、JICAのアクティブなメニューを我々がもっと積極的に利用させていただくようにしなければならぬと思います。
- 市民向け事業強化に向けた基盤の確立。
- 世界の情報を提供して頂き小学校向けの教材内容を考え小学生には国際社会をどう理解させ将来につなげるようにするためには、今ここで何をしておくべきか。

◆ 今後への期待（第2回アンケートより）

- JICAの存在をもっと知らせてほしいです。とくに、大人達にも。
- 体験“談”に終わらないJICA国際協力出前講座の充実。継続的な学校支援（同じ学校に何日か行く、とか）。
- 開発教育を行なっている他のNGOや国際機関と連携を取ってほしいです。→各団体で行うには限りがあります。
- 小学校の総合学習に活用できる資料の紹介、貸し出し等。
- 色んな人たちと交わる機会を是非つくっていきましょう！
- プログラムをどんどん広げていって下さい。たくさん参加してたくさん吸収したいです。
- ネットワーク強化策を考え、場づくりを希望。
- もっと一般人に知ってもらうこと

- もっとたくさんの開発教育指導者を増やせる機会・場所・宣伝をお願いしたい。
- 講習会等このような機会を増やして欲しい。外国人の人、協力隊の人たちとふれあう大人向けのプログラムも欲しい。
- さらなる一般人への知名度アップを。
- 予算制限、特殊法人化など、逆風が吹いていますが、機会・きっかけづくり選択肢を広げるためにがんばってほしいと思います。
- また学校への出前講座等があると、多くの人々に楽しい研修の存在を知ってもらえると思います。
- Should be ... a ... Resource Center, Training Center, Support Center, Evaluating Center
- 学校の教諭などというのは世界の狭いものですので、このような機会に様々な人々と交流し、児童生徒に還元できるようにしてゆきたいと思います。
- 入門講座の複数開催を希望します（協会職員の啓発の場を増やしたい）。
- 無駄にならないかという広報活動もありますが、どこかで必要と感じてくれる人々の為に草の根活動をお願いします。
- シニア世代への発信促進（お手伝いできることあればさせて頂きたく存じます）。
- 開発教育の参加型の手法を教材化して事例等を増やしていただけるとありがたい。

◆ 扱って欲しい内容（第1回アンケートより）

- 人間の「負」の感情について。
- 対象別研修。
- JICA職員や研修員さんと指導者がJICA国際協力出前講座をしてみたい。いきなり、生徒に企画しても自分がわからないと不安。
- 具体的な実践を、参加型（ワークショップ）でできるといいです。
- 実践理解の場を作ってください。
- 小、中学生の対象の研修も。
- ステレオタイプ。
- 開発途上国の今後の課題を子どもに考えさせるための内容。
- 現場の校長・教頭にもしてほしい
- 具体的な実践方法などをもっと知りたいので、そのような内容を扱って欲しいです。
- 最後にプログラム作りを行うと思いますが、そのプログラムが実践で使われることができる様、なるべく立場の近い人でグループを組んで作成したらどうでしょうか。（学校の先生だったら授業の現場・JICA推進員はJICA国際協力出前講座でというように）。
- 教材研究、模擬授業、子ども達と一緒に作る授業。
- ・セルフエスティームを高めるワークショップを扱って欲しいです。対立から合意形成を目指す内容。
- 『コミュニケーション』の実践として、研修員の人たちの交流などをしてみたいと思います。
- 講義も聞きたいと思います。
- 波及効果を高めるためにはどうすればよいのか考えたい。
- ジェンダーなど
- 具体的なファシリテートの仕方（実習？実践？）。
- 私は小学生を担当しているためからの意見になると思うのですが、小学校生の心は素直です。この時期に小学生にはどのような教材を与え話し合い小学生なりの考えを持つ事ができるような内容がほしいと思います。

◆ 扱って欲しい内容（第2回アンケートより）

- 今日紹介された様々な手法を体験したいです。
- 参加型12の手法を実際にやってみたいです。
- 目的別の流れのあるワークショップのいくつかのパターンを紹介して欲しいです。

- いろんな切り口で開発教育を実践するためのワークショップ。
- 企業人向へのプログラム。
- 子ども対象にできるワークショップの内容を。
- 知識提供とワークショップを統合した事例。
- 開発教育実践の場を作ってほしい。例えば、小学校とタイアップして、アシスタントとして参加してみたい。
- 青年海外協力隊OBなどの生の話が聞けるようなワークショップ環境に関するもの。
- みんなが知っているだろうと思うようなpopularなネタの紹介 新ネタばかりでなく、フォトランゲージ、貿易、バナナ…知っているようで知らない。基礎基本の技能へ時々戻ってほしい。外国人研修員の参加開発される側の人の意見がききたい。JICAなのだから。
- できるだけ多くの方々のお話を伺う機会を作っていただく。
- フェアトレードの紹介（衣料品・生活品）特に（紅茶・コーヒー等）実際に口に入る品物を紹介して欲しい。センターで宿泊して暇ができました。ビデオライブラリーを貸りて自室で見たかったです。
- 現場（学校等）の実状（50分授業）の中でのプログラム作成法と実践研究。
- 海外よりの研修生と、今回のようなテーマでワークショップに参加したい。

(13) 参加した理由・動機

最後に、今後の研修募集の参考とするため、参加した理由・動機についてのアンケート結果を掲載しました。

◆ 具体的回答

- 国際理解教育の系統的な方法の習得。
- 何かあるなと思った。
- 世代の違うコミュニケーションを期待して。
- 中級ってどんなもん？って知りたかったから。
- 国際理解教育に携わっているのだから、児童に役立てたいから。
- 中学校の総合学習で講座をもつ予定なので、そのプログラムを作るために勉強したかったから。自身も興味があって、生涯学習という感じでとりくみたいと思っているから。
- 開発教育やコミュニケーションの大切さについてもっと知りたいと思ったから。
- 開発教育にたずさわる元気な方々に出会い、刺激を得るとともにスキルアップを図る。今後の活動の中で、助けあえるような人間関係をつくるため。
- 幅を広げたくて。
- 開発教育の手法を学ぶため。
- 学校でワークショップを自分で実施して広げていきたいので。
- 基本に立ちかえり、今後に活かすため。
- ノウハウの入手。
- 地域で国際交流活動を推進したいため。
- 国連地域開発センター（UNCRD）でファシリテーターをしているので勉強するため。
- JICAに参加する青年海外協力隊員のスキルアップに貢献したいので。
- 伝え方（話し方）のスキルを学びたくて。
- 開発教育について、もっと知りたかったから。
- 青年海外協力隊のつながり&教育現場で生かしたいから。
- 向上心から。
- 非日常的な出会いを求めて、生涯学習の勉強のために、地域で生かせる交流の方法と学ぶ為です。

- 知人に紹介され、国際理解教育について勉強したかったから。
- 同じ職場の人に紹介してもらったから。また人との交流ということに興味があったから。
- スキルアップのため。
- 山中さんのワークショップに参加したかったから。
- 山中さんや JICA の開発教育の取り組みを感じたくて。
- ファシリテーターのスキルを身につけたい。ワークショップを実際に体験したいという思いから。
- 開発教育・国際理解教育のスキルをより多く学ぶことで、子どもたち有意義な指導ができればと思い参加しました。
- 開発教育自体への関心と、その手法を盗ませて頂きたくて。
- 国際理解教育に携わっているため。
- 今後、人に教えるという立場に立った時のため
- ①開発教育（国際理解教育）について勉強のため。②人間関係が上手く築けないのでコミュニケーションについての内容に興味があったため。
- 直接小学校高学年の総合教育の中の国際理解教育を担当し今までのように私の知っている事の切り売りのような学習ではいけないと考えはじめたから。
- 「学び合い」をまた体験したかったから。メンバーの人たちと再会したかったから。
- J I C A 専門家 O B 会として開発教育に参加を計画しているため。
- 自分のいる場で開発教育を進めたいので、その実践力をつけるために参加しました。
- 地域での国際理解教育を発展させたいから。
- 日頃の活動を深めるためから。
- N I C（名古屋国際センター）の研修。
- 推進員に進められたので。
- 「開発教育とは」何かを知りたかった
- 開発教育の実践者になりたいから。
- 開発教育についてもっと知りたい、勉強したいと！！
- 学校で国際理解教育に携わっており、方向性をつかみたいから。
- 総合的学習の時間のカリキュラム作成のため。
- ファシリテーターとしての能力を向上させたい。私ができることの確認、すべきことの認識を持ちたい。という思いから。
- 国際理解教育に興味があり、指導者研修でもあったから。
- ハングリーだから。なぜ何を どのように いつ…。
- 国際理解教育・開発教育のノウハウを学ぶため。
- 開発・国際理解教育の深みを知りたかった。
- 時代の短所をカバーする新しい時代の教育の仕掛け（新しい人生設計など）を探るため。
- 高校の英語授業や自由選択講座のネタや、ノウハウを学びたいと思って参加した。
- 表現の力をつけたい。